



# みんなでつくろう！セーフコミュニティちちぶ 自然の中での安全対策委員会事業報告

発表者：委員長 高橋 幸太郎

所 属：元秩父市民生委員・児童委員協議会

# 対策員会の構成

区分	団体・組織名	委員数
住民組織等 (6人)	町会長協議会	1名
	民生委員・児童委員協議会	1名
	農協	1名
	観光協会	1名
	体育協会	1名
	青少年育成協議会	1名
行政機関 (9人)	警察	1名
	消防	1名
	埼玉県 <b>New</b>	1名
	秩父市 (森づくり課、農政課、市民スポーツ課、 観光課、公募職員) <b>New</b>	6名

# 対策員会の経過

回数	開催日	主な会議内容
第16回 ～ 第33回	2016年5月～ 2021年3月	取組み①～⑥を協議 「取組みの充実・周知・新規」、「課題の整理と対策」、「成果と評価指標」、 「アンケート結果」、「連携強化と効果的な取組み」、「効果的な引継ぎ」 について
	2016年10月19日	★ S C 認証1周年記念イベント（箕輪町 S C 関係者による講演会と取組み報告）
	2017年11月25日	★市民安全・安心フォーラム2017inちちぶ（S C 認証2周年記念イベント） 市民啓発映画祭、記念鼎談、有識者による S C 分科会
	2018年 5月 2019年 5月	★ S C 講演会（新委員向け研修含む）
	2019年 2月 1日	★ S C 事業報告会（S C 認証3周年報告イベント）
	2019年 10月 8日	★SC再認証事前審査（S C 認証4周年報告イベント）

★は、支援センター（日本セーフコミュニティ推進機構）が参加

# 秩父市のアウトレジャー

## ◆登山

写真①

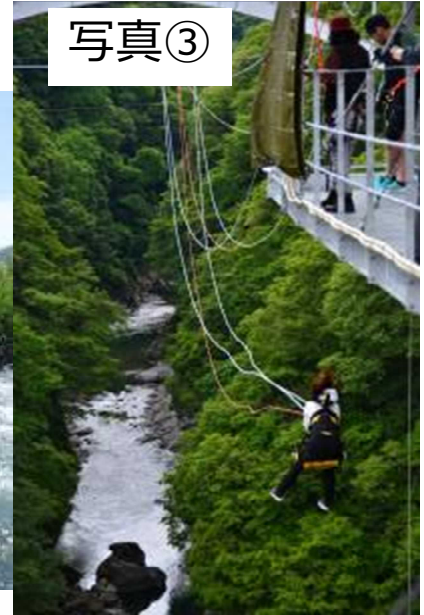


## ◆川遊び

写真②



写真③



## ◆サイクリング

写真④



## ◆BMX

写真⑤



# 設置の背景

## アウトドアレジャーでのケガ

＜自然の中での外傷の状況＞

図表 1

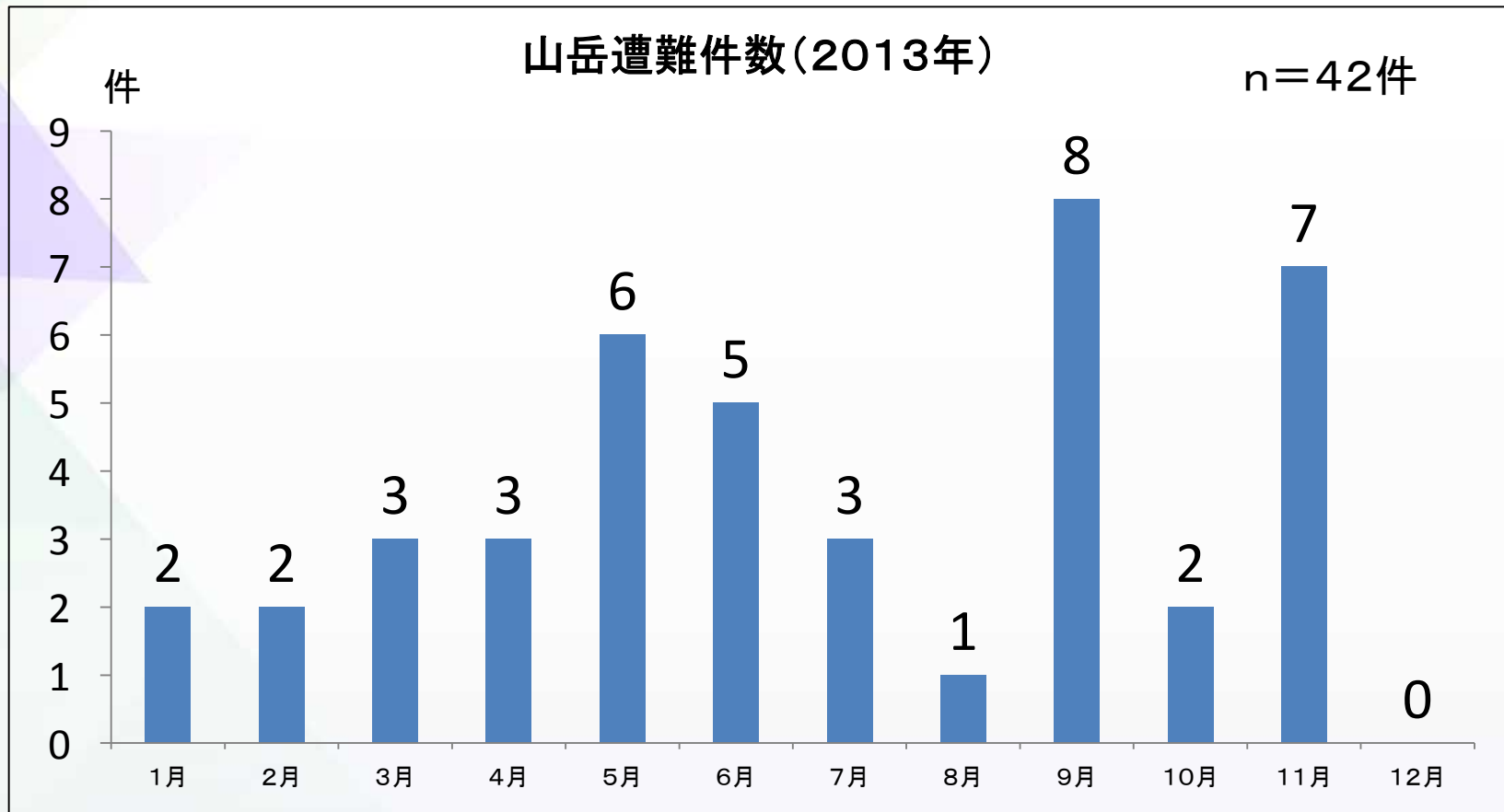
場 合	件 数	備 考
登山・ハイキング	67	
農林作業中	35	うち18件が機械取扱い中
レジャーとしてのサイクリング	27	
キャンプ	7	
公園内での活動	43	
河原・沢での活動	36	うち釣りが13件

# 安全課題①

図表2

## 山岳遭難発生件数

・毎年ハイシーズン（初夏と秋）に多く山岳遭難事故が発生する



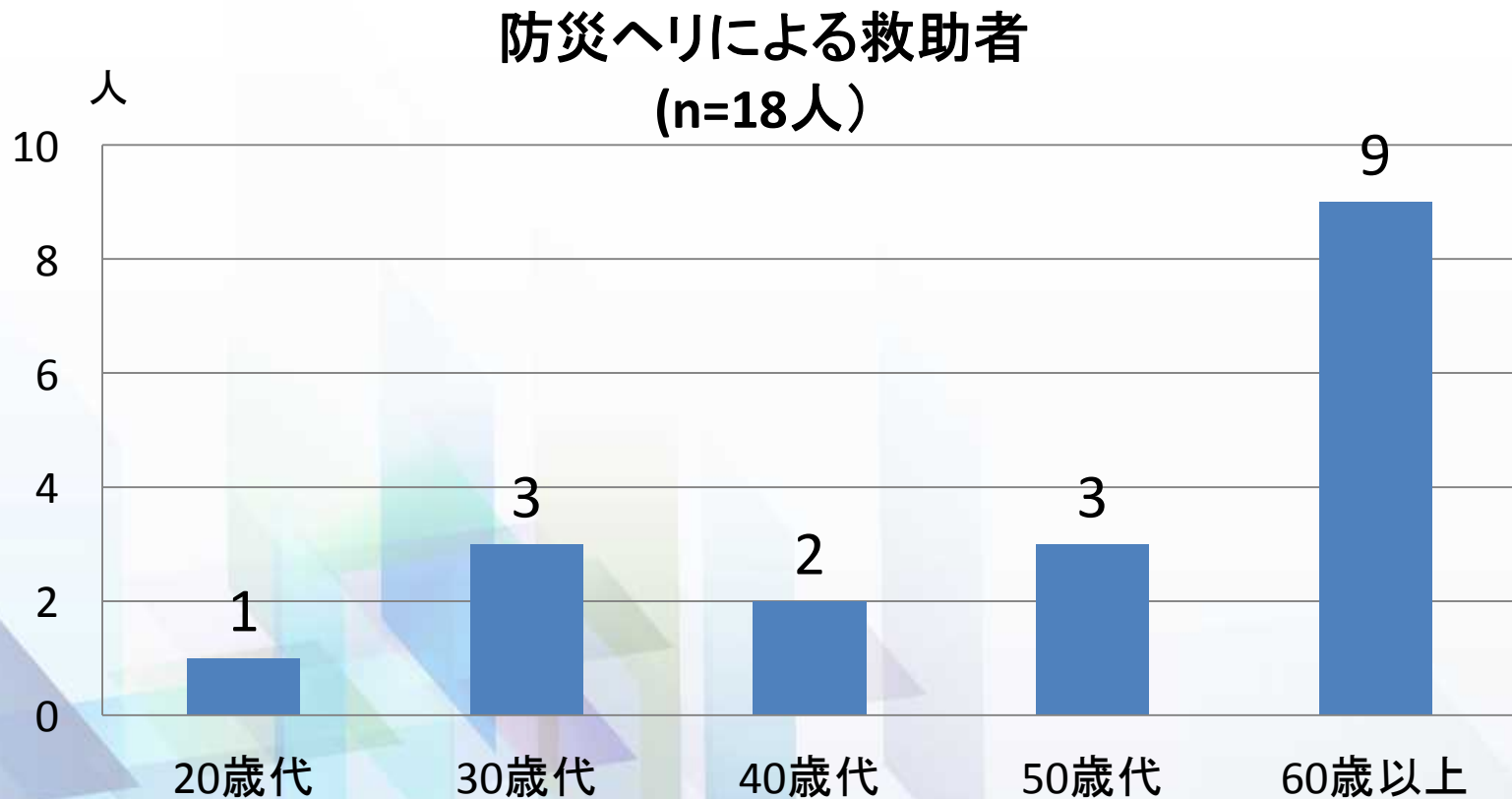
出典：秩父警察署山岳遭難データ（2013年）

# 安全課題②

図表3

## 防災ヘリコプターによる救助件数

- ・ 当市には、初級者から上級者まで楽しめる山がそろっている。
- ・ 2012年は18人が救助され、うち9人は、高齢者である。



出典: 埼玉県防災航空センター(2012年)

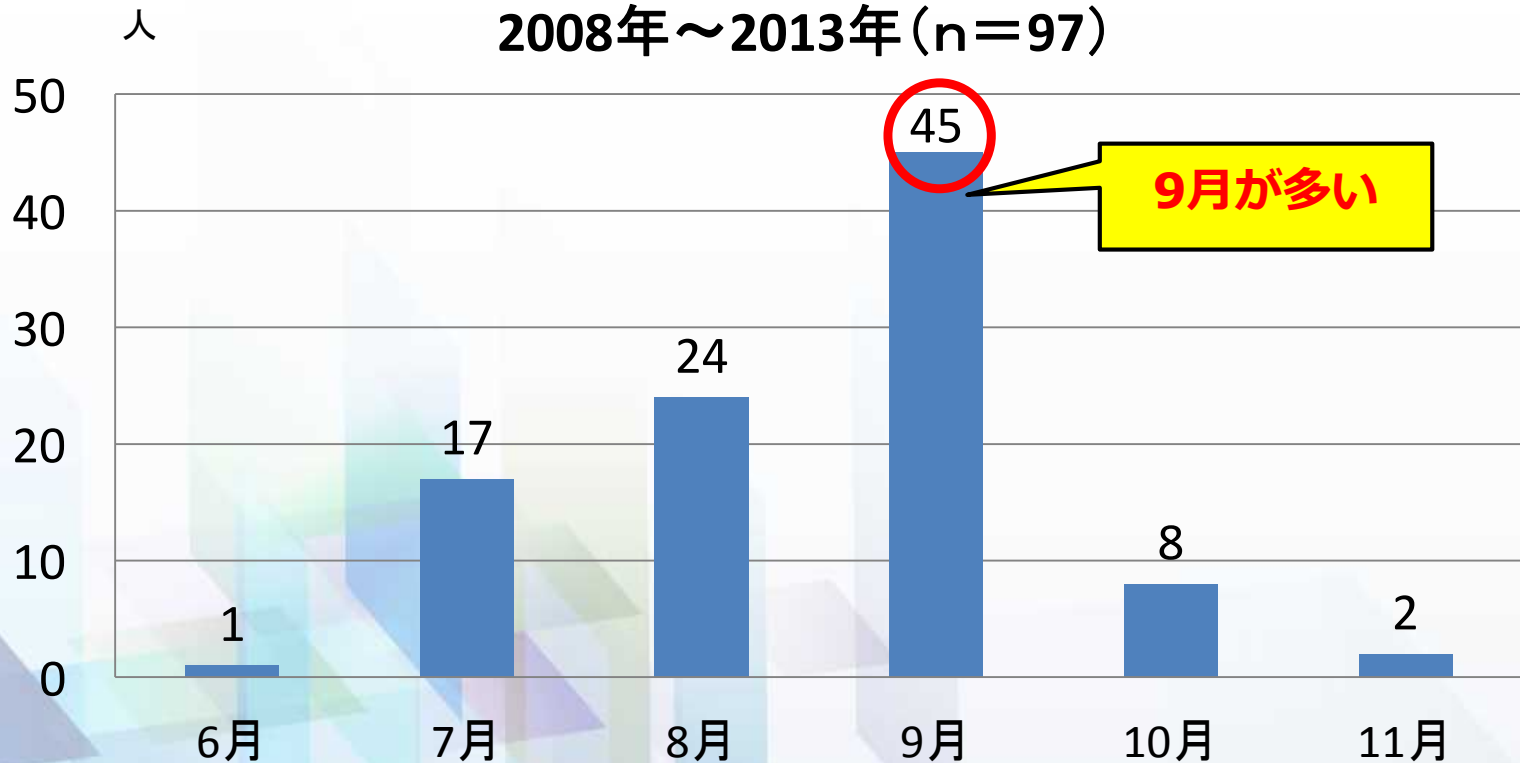
# 安全課題③

## ハチ刺されによる外傷は9月が多い

- ・ハチ刺され事故も数多く発生
- ・集団で刺されるケースもあり、夏～秋にかけて（特に9月）多い。

図表4

ハチ刺されによる搬送件数（月別）  
2008年～2013年（n=97）



出典：秩父消防本部救急搬送データ



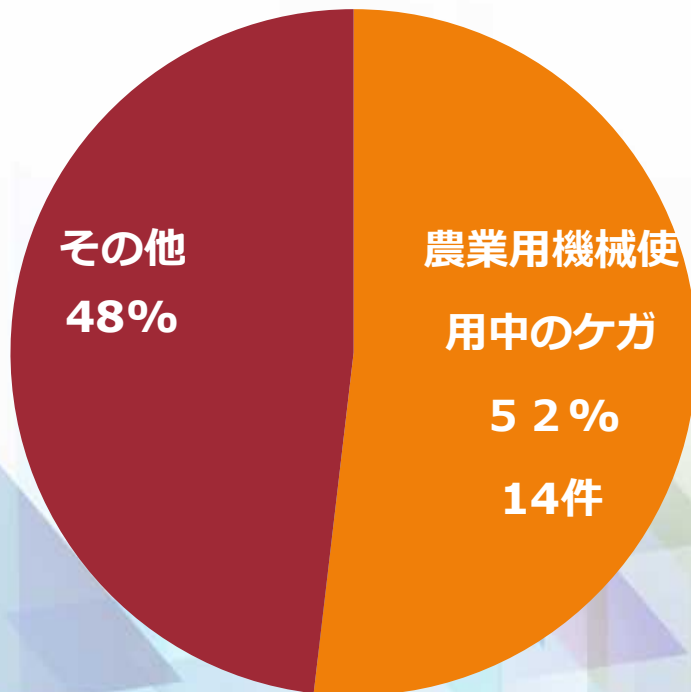
# 安全課題④

図表5

## 農作業による外傷の状況

- ・「農業用機械の使用」の事故が14件
- ・うち12件は「挟まれ・巻き込まれ」によるケガで、死亡に至る事故も

農作業中のケガ(n=27)



ケガの分類	件数	ケガの度合い
挟まれ・巻き込まれ	11	死亡1件 重傷2件 中傷4件 軽傷4件

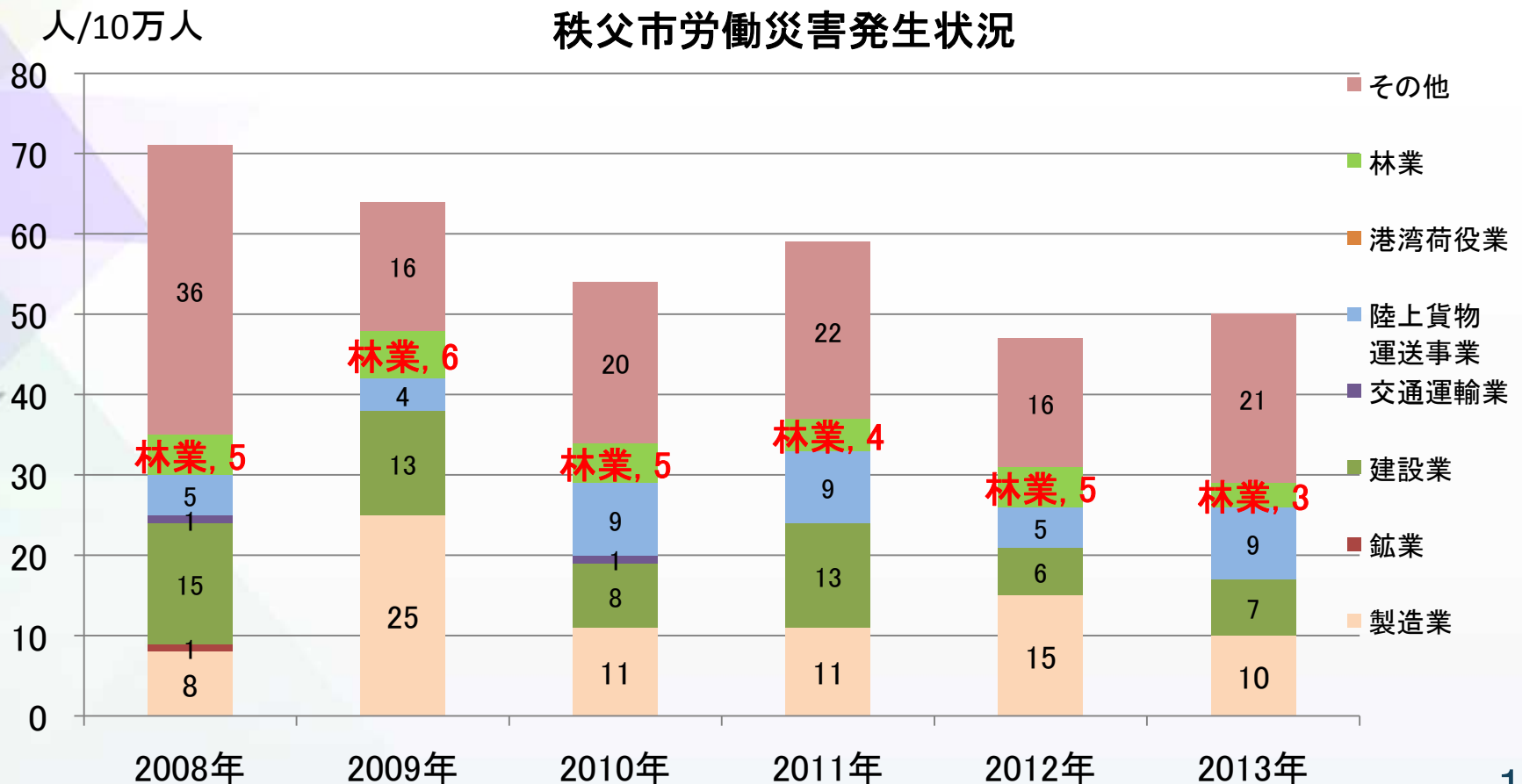
# 安全課題⑤

図表6

## 労働災害データ

国の値に比べて林業作業中のケガが多く発生

※国の林業における労働災害発生率は「2件／10万人」（2008年～2013年の平均値）



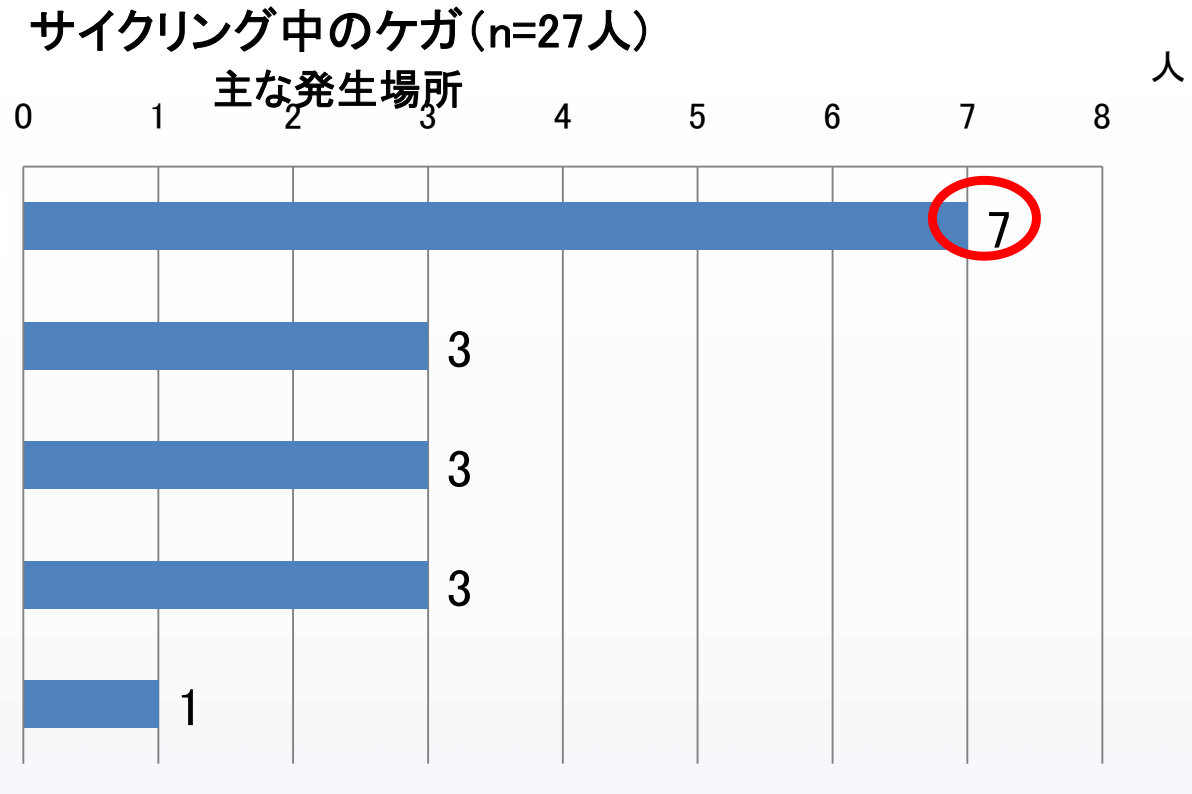
出典：秩父労働基準監督署 労働災害データ

# 安全課題⑥

## サイクリング中の外傷の状況

- ・ レジャーとしてのサイクリング中におけるケガは27件  
「大型公園内」がもっとも多い

図表7



# 課題の整理

図表 1

図表 2

図表 3

図表 4

図表 5

図表 6

図表 7

課題 1 登山・ハイキング中の事故が多い。

課題 2 ハチ刺されによる事故が多い。

課題 3 農林作業中の事故が多い。

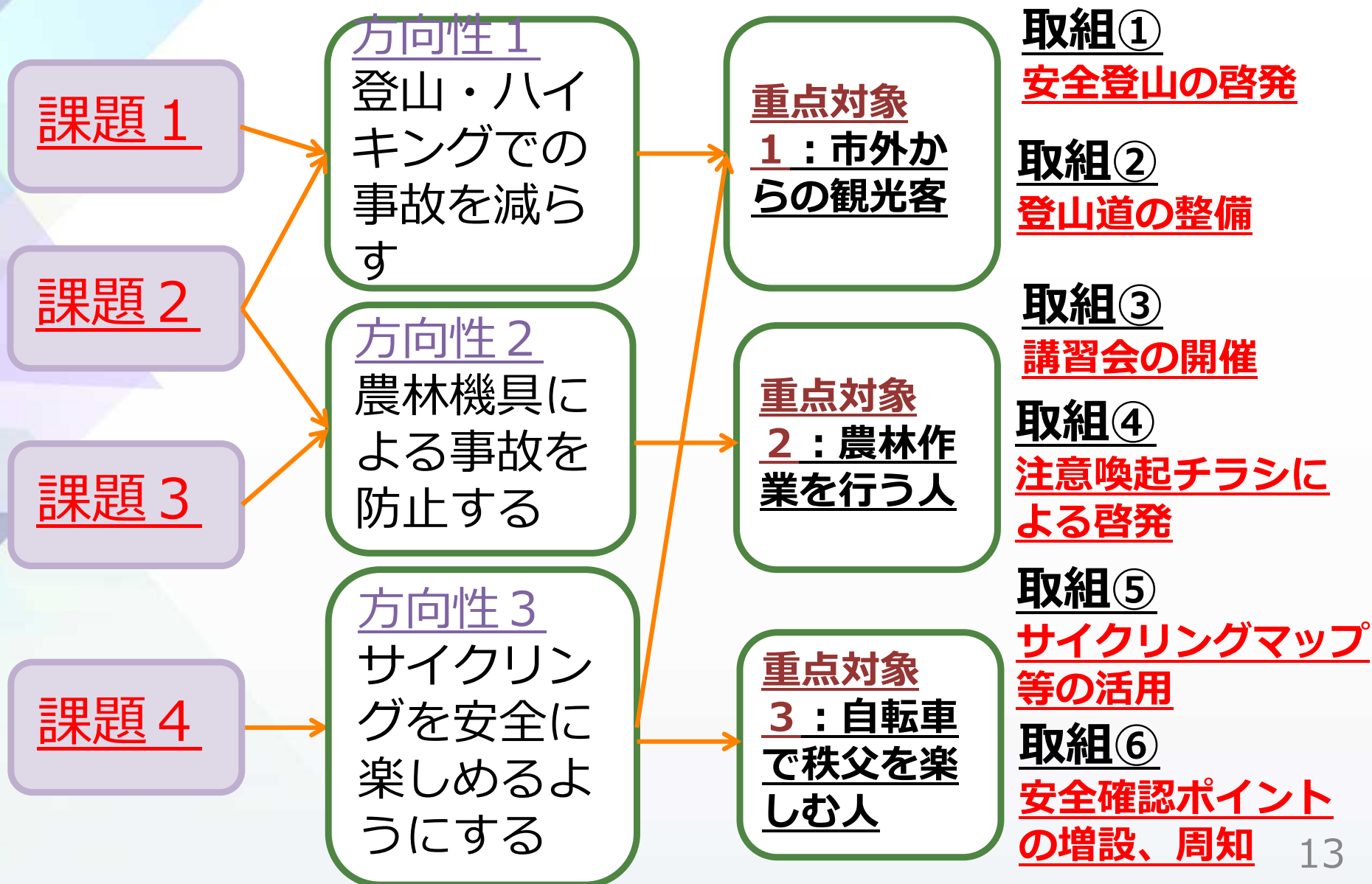
課題 4 レジャーとしてのサイクリングでの事故が多い。

方向性  
1

方向性  
2

方向性  
3

# 課題、方向性、重点対象、取組の整理



# 課題①②のレベル別の対策（主なもの）

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
課題①② (図表1,2,3,4)	教育啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全登山の啓発</li> <li>・啓発リーフレットの配布</li> <li>・啓発キャンペーンの実施</li> <li>・ホームページで安全登山の啓発と登山届（オンライン登録）の推進</li> <li>・安全登山教室の開催</li> </ul>	【市】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全登山のキャンペーンの参加</li> <li>・ホームページで安全登山の啓発、登山届（オンライン登録）の推進、ハチ刺され注意の啓発</li> <li>・ハイキングマップの作成</li> </ul>	
	規制	<b>【対策委員会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組み1：安全登山の啓発</li> <li>・取組み2：登山道の環境整備</li> </ul>		
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山ポストの増設</li> <li>・登山道の案内標識や注意喚起看板の設置</li> <li>・登山道、トイレ、避難小屋等の整備・管理</li> </ul>	【市】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山道の案内標識や注意喚起看板の設置</li> <li>・登山道の整備</li> <li>・ハチの巣駆除の際の防護服と薬剤の貸し出し</li> </ul> 【地域】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山道の草刈りなど</li> </ul>	

# 課題②③のレベル別の対策（主なもの）

課題	対 策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
課題③② (図表 4,5,6)	教育啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国農作業安全確認運動</li> <li>・ホームページでの事故防止啓発</li> <li>・労働安全衛生規則</li> <li>・安全衛生特別教育規定</li> <li>・労働災害防止計画</li> </ul>	<b>【市】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内での講習会の開催「ハチ刺されの注意喚起も実施」</li> <li>・市窓口での事故防止啓発チラシの配布</li> </ul>	
	規制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働安全衛生法</li> </ul>	<b>【対策委員会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組み3：安全講習会の開催</li> <li>・取組み4：チラシの配布</li> </ul>	
	環境整備			

# 課題④のレベル別の対策（主なもの）

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
課題④ (図表7)	教育啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国交通安全運動</li> </ul>	【市】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクリングマップの作成・配布</li> <li>・サイクルステーションの整備</li> </ul>	
	規制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路交通法</li> </ul>	【地域】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクルステーションでのヘルメットの貸し出し</li> </ul>	
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車専用レーンの設置</li> <li>・標識、カーブミラー、ガードレール等設置</li> </ul>	<div style="border: 2px solid black; background-color: yellow; padding: 10px;"> <b>【対策委員会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組み5：サイクリングマップ等の活用</li> <li>・取組み6：自転車安全ポイントの周知・増設</li> </ul> </div>	



# 課題①～④に対する既存の取組み

## ◆登山道の整備(課題①)

## ◆ハチの巣駆除の防護服貸出(課題②)

写真⑥



写真⑦



写真⑧



## ◆農林機具講習会(課題③)

## ◆ヘルメット貸出(課題④)

写真⑨



写真⑩



# ①安全登山の啓発（継続）

課題	①登山、ハイキング中の事故が多い ②ハチ刺されによる外傷が多い	
方向性	登山・ハイキングの事故防止	
内容等	【内 容】	登山の危険性や装備・携行品等について、注意を促すパンフレットを配布する。
	【対 象】	登山者
	【対策委員会の役割】	取組みへの支援 ①登山者の交通手段を利用したリーフレットの配布 ②街頭啓発キャンペーンの参加 ③市報、ホームページ、ハイキングマップ等による啓発
（短期） 意識・知識の変化	【指標】 キャンペーン実施回数、啓発チラシの配布数	【測定】 埼玉県消防・防災課提供データ
（中期） 態度・行動の変化	【指標】 登山の際に安全な計画を行っている人の割合	【測定】 アンケート調査
（長期） 状態・状況の変化	【指標】 登山中の遭難件数	【測定】 警察統計

# 取組み1

## ■安全登山の啓発

写真⑪

西武秩父駅



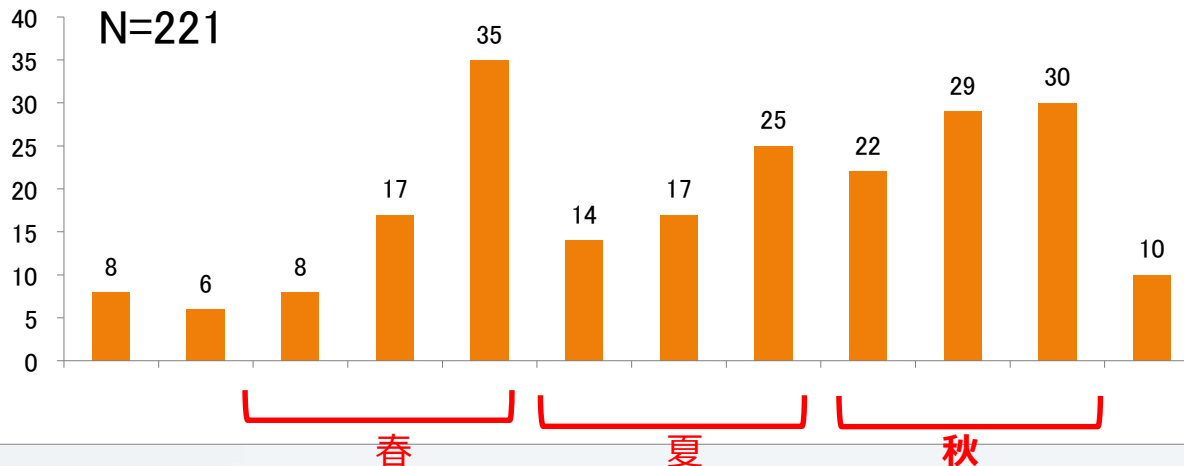
写真⑫

登山届を記載し提出



図表⑧

月別山岳遭難件数(2014~2020年) 出典:秩父警察署データ



### SC認証後

- ① タクシー利用者へ啓発リーフレット配布。
- ② 関係団体で山岳情報を共有し、ホームページをリンク。
- ③ 委員自らもキャンペーンへ参加。
- ④ ハイキングマップに危険箇所を掲載
- ⑤ GPSと山岳ヘルメットの活用を呼びかける

# 短・中期評価（意識・行動の変化）

## ■キャンペーン実施回数、啓発チラシの配布数(短期評価) 図表⑨

年度	キャンペーン回数	リーフレット配布数
2015（認証）	2回（春・秋）	4,350枚
2016	3回（春・夏・秋）	6,500枚
2017	3回（春・夏・秋）	10,060枚
2018	3回（春・夏・秋）	16,378枚
2019（大型台風）	2回（春・夏）	1,610枚
2020（コロナ禍）	2回（夏・秋）	2,062枚

データ：埼玉県消防・防災課

## ■登山の際に安全な計画を行っている人の割合(中期評価) 図表⑩

キャンペーン等での啓発リーフレットの配布	2019	2022
認知度	29% (n=1,041)	
安全な計画行っている人	36% (n=299)	

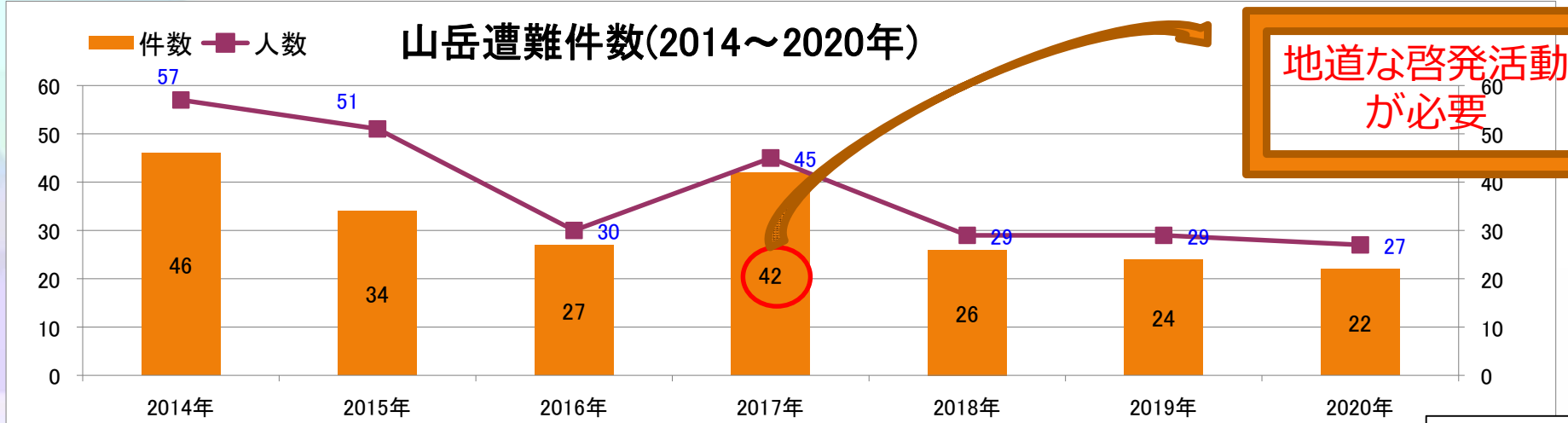
認知度・割合の上昇を目指していく

データ：秩父市安全・安心なまちづくりに関するアンケート調査

# 長期評価（状況の変化）と現況

図表⑪

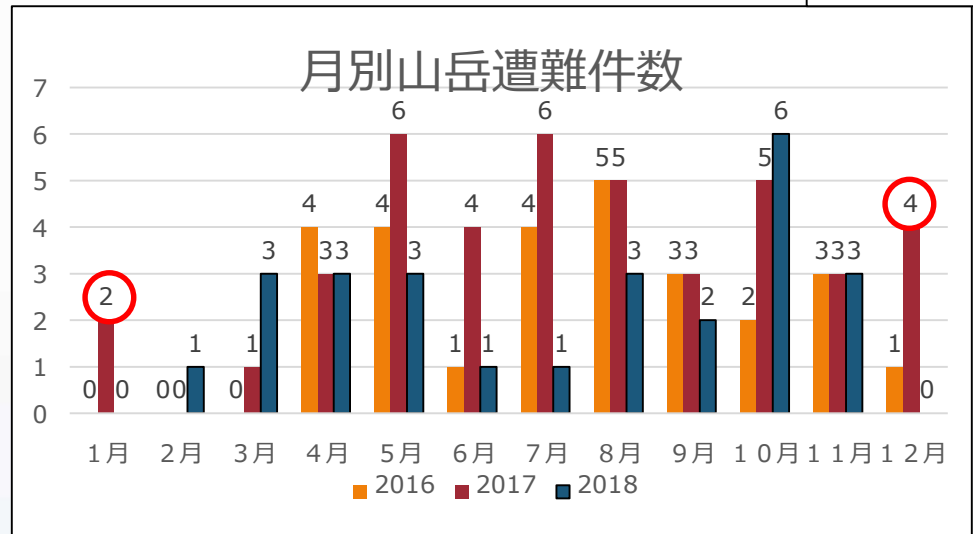
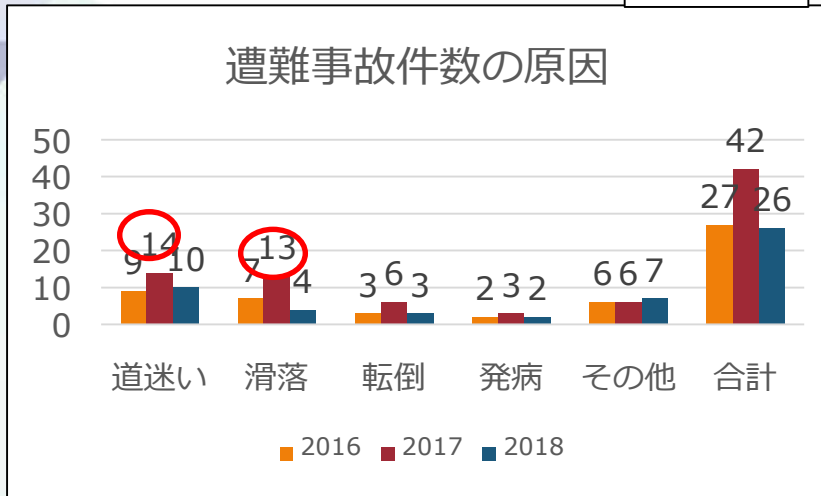
## 山岳遭難件数(長期評価)



図表⑬

## 遭難データ

図表⑫



# ②登山道の環境整備（継続）

<p><b>課 題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登山、ハイキング中の事故が多い</li> <li>・ ハチ刺されによる外傷が多い</li> </ul>	
<p><b>方向性</b></p>	<p>登山・ハイキングの事故防止</p>	
<p><b>内容等</b></p>	<p>【内容】</p>	<p>迷いやすい箇所には道標等を整備する。市内で遭難事故が最も多かった山を対象に、対策を実施。</p>
	<p>【対象】</p>	<p>登山者</p>
	<p>【対策委員会の役割】</p>	<p>取組みへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 遭難件数が多い山へ道標等の整備を依頼する</li> <li>② 情報提供（山岳遭難データ）</li> <li>③ 市報、ホームページ、ハイキングマップ等による啓発</li> </ul>
<p><b>（短期） 意識・知識の変化</b></p>	<p>【指標】 案内板等危険箇所整備数</p>	<p>【測定】 埼玉県秩父環境管理事務所データ、秩父市データ</p>
<p><b>（中期） 態度・行動の変化</b></p>		
<p><b>（長期） 状態・状況の変化</b></p>	<p>【指標】 整備した山での登山中の遭難件数</p>	<p>【測定】 警察統計</p>

# 取組み2

## ■登山道の環境整備



SC取組後  
遭難件数が多い両神山  
に案内板等  
を設置

御岳山：案内標識を設置

両神山：案内標識を設置

2015年～2020年の山岳遭難事故が多い山

図表⑭

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	合計
両神山	11	3	13	8	9	4	48
武甲山	3	3	2	2	3	8	21
三峰山	5	0	2	3	0	1	11
雁坂峠	1	0	4	0	2	1	8
雲取山	1	1	4	0	0	0	6

# 短・中期・長期評価（意識・行動・状況の変化）

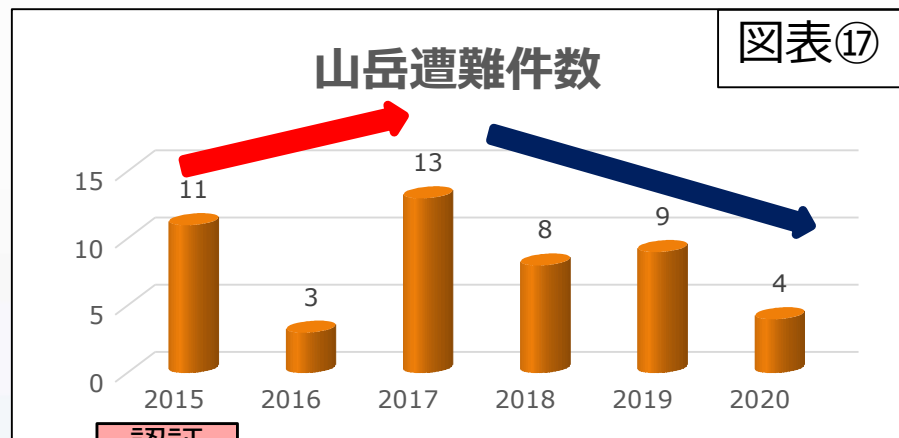
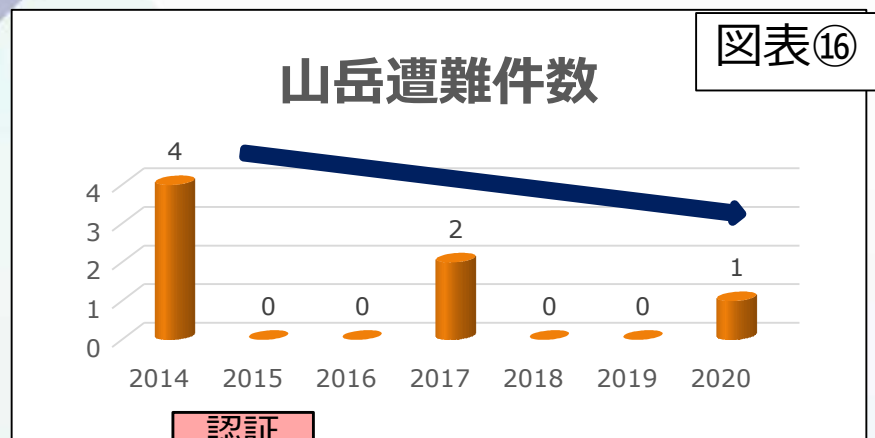
## ■案内板等の設置数(短・中期評価)

データ：埼玉県、秩父市

図表⑮

年度	秩父御岳山	両神山
2014	2箇所(標識設置)	—
2015	10箇所(簡易標識設置)	—
2016	—	4箇所(標識交換) 2箇所(ロープ設置) 1箇所(はしご整備)
2017	コース整備(2017~2019) ・2箇所(総合案内板設置)	1箇所(くさり修繕) 1箇所(案内板設置) 11箇所(標識交換)
2018	・1式(コース整備)	ラミネート紙による注意喚起 6箇所
2019	令和元年大型台風の復旧整備 (2019~2020)	令和元年大型台風の復旧整備(コース整備1式)
2020	・コース整備(橋修繕7箇所、改修工事3箇所)	1箇所(丸太橋修繕) 危険コースの通行止め(看板設置2箇所及びトラロープによる侵入防止) 適宜(倒木処理)

## ■対象とした山での遭難件数(長期評価)



データ：秩父警察署



写真⑮



# ③安全講習会の開催（継続）

<b>課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農林作業中の事故が多い</li> <li>・ ハチ刺されによる外傷が多い</li> </ul>	
<b>方向性</b>	農林機具による事故防止	
<b>内容等</b>	<b>【内 容】</b>	草刈機やチェーンソーなどの機具を安全に使用するための実技講習会を開催する。また、市内で開催することで、参加者を増やす。
	<b>【対 象】</b>	農林作業従事者
	<b>【対策委員会 の役割】</b>	<b>取組みへの支援</b> ①農林機具講習会の市内開催の支援（ハチ刺されも講習会で注意喚起） ②講習会等の開催チラシをホームセンターで配布
<b>（短期） 意識・知識の変化</b>	<b>【指標】</b> 農林機具の安全使用に関する意識の変化	<b>【測定】</b> アンケート調査
<b>（中期） 態度・行動の変化</b>	<b>【指標】</b> 農林機具を安全に使用している人の割合	
<b>（長期） 状態・状況の変化</b>	<b>【指標】</b> 農林機具使用中の受傷者数	<b>【測定】</b> 救急搬送データ

# 取組み3

## ■安全講習会の開催

## SC認証後

チェーンソーの取り扱い講座開始（市内で無料開催）

写真⑯

市内講習会（草刈り機）



写真⑰

チェーンソー取扱講座

New



# 短・中期評価（意識・行動の変化）

## ■安全な使用方法の知識の向上・守っている人の割合（短・中期評価）

### 草刈機講習会アンケート

回答者 (n=30人)

図表⑱

項目	2018年
講習会は必要だと思うか	100%
講習会の内容を実践しようと思うか	100%
草刈機使用中にケガやヒヤリとしたことはあるか	37.9%

### チェーンソー取扱講座アンケート

図表⑲

項目	2018年 (n=17人)	2019年 (n=8人)	2020年 (n=21人)
今回の講座は参考になった	100%	88%	93%
チェーンソーの教育を受けたことがない	63%	75%	71%
役に立つと思った部分はどこか	メンテナンス 41% 取扱 29% 安全面 1 8%	メンテナンス 38% 取扱 25% 安全面 25%	メンテナン ス 29% 取扱 52% 安全面 19%

2020年 学んだことを行動に移していく 94%

データ：秩父市

# ④チラシの配布（継続）

<b>課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農林作業中の事故が多い</li> <li>・ ハチ刺されによる外傷が多い</li> </ul>	
<b>方向性</b>	農林機具による事故防止	
<b>内容等</b>	<b>【内 容】</b>	初心者が機具を購入しやすいホームセンターで安全使用を呼びかけるチラシを配布する。また、町会を通じて回覧する。
	<b>【対 象】</b>	趣味で農作業をする人、町会でボランティア作業をする人
	<b>【対策委員会の役割】</b>	<b>取組みを実施</b> ①ホームセンターへお願いし、注意喚起チラシ及び講習会案内チラシを配布 ②市報や市内回覧で注意喚起を実施
<b>（短期） 意識・知識の変化</b>	<b>【指標】</b> 啓発チラシの配布枚数	<b>【測定】</b> 秩父市データ
<b>（中期） 態度・行動の変化</b>	農林機具を安全に使用している人の割合	<b>【測定】</b> アンケート調査
<b>（長期） 状態・状況の変化</b>	<b>【指標】</b> 農林機具使用中の受傷者数	<b>【測定】</b> 救急搬送データ

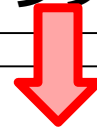
# 取組み4

## ■チラシの配布

草刈機使用啓発チラシ

## SC認証後

講座の開催チラシをホームセンターで配布  
(チェーンソーの取り扱い講座)



チェーンソー取扱い講座のご案内

New

チェーンソーは誰でも購入でき、木の伐採等では大変役立ちます。一方、取り扱いを誤ると大きなけがにもつながるため、使い方を熟知したうえで使用する必要があります。

チェーンソーの安全な使い方や注意点等をお伝えする取り扱い講座を以下のとおり開催します。ふるってご参加ください。

【チェーンソーの取扱い講習会】

と き：平成30年8月25日(土) 9:00～

と ころ：秩父広域森林組合木材センター  
(秩父市寺尾2718-1)

※資格取得講座ではありません

※木の駅プロジェクト説明会(裏面参照)と併せて行います  
【問合せ先】秩父市森づくり課(電話 22-2369)



参加費無料！どなたでも参加できます！！

チェーンソー取扱い講座の様子



## 刈払機は正しく使いましょう！

刈払機は手軽で便利な機械ですが、事故が多く、死亡事故も発生しています。正しく安全に使いましょう。



2011年9月 埼玉県農林部農業支援課  
埼玉県 作田直子、(株) 農研機構 動物系特定産業技術研究支援センター

# 短・中期評価（意識・行動の変化）


## ■チラシ配布数（短期評価）

図表⑳

年度	設置数（市内ホームセンター）	配布数
2015	4店	300枚
2016	4店	400枚
2017	4店	100枚
2018	4店	200枚
2019	5店	225枚
2020	5店	600枚

## ■安全使用の割合（中期評価）

図表㉑

ホームセンターでのチラシの配布	2019	2022
周知度	14% (n=1060)	
安全使用の割合	39% (n=153)	

周知度・割合の上昇を目指す

データ：安全・安心なまちづくりに関する市民意識調査アンケート

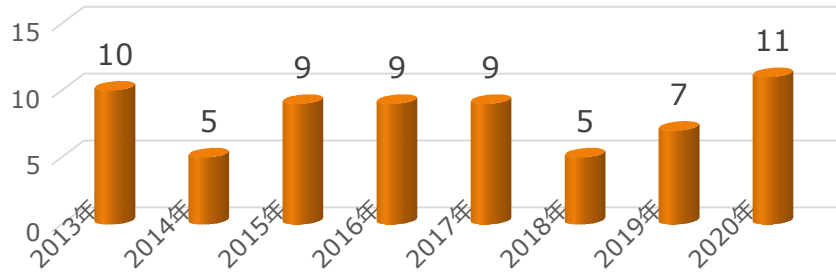
# 長期評価（状況の変化）と現況

## ■農林機具による事故(長期評価)

データ:労働災害データ(秩父労働基準監督署)

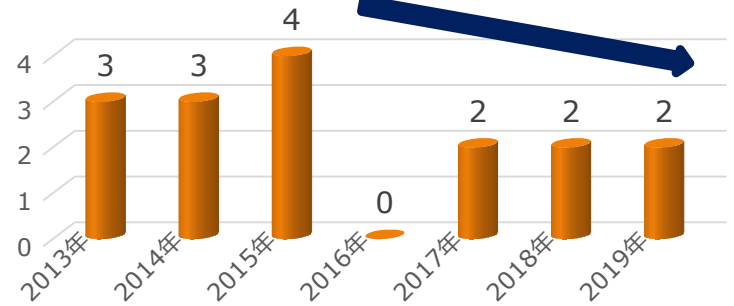
農林作業中の 受傷者数

図表⑳



林業 受傷者数

図表㉑



データ:救急搬送データ(秩父消防本部)

年度	受傷者数	草刈機	チェーンソー	農業用機械 (管理機等)	その他 (転倒等)
2015	9	0	1	4	4
2016	9	1	2	3	3
2017	9	0	0	5	4
2018	5	0	1	0	4
2019	7	0	0	3	4
2020	11	0	1	0	10
合計	50	1	5	15	29

図表㉒



# ⑤サイクリングマップ等の活用（拡大）

課 題	サイクリングの事故が多い	
方向性	サイクリング中の安全確保	
内容等	【内容】	既存のサイクリングマップに危険箇所を掲載し、サイクリストに注意を促す。次回、増刷時に危険ポイントの掲載を増やす。
	【対象】	サイクリスト
	【対策委員会の役割】	<b>取組みの支援</b> ①サイクリングマップ配布箇所の増設 ②サイクリングマップの危険箇所の掲載を増やす
（短期） 意識・知識の変化	【指標】 マップの配布枚数と配布箇所数	【測定方法】 秩父市データ
（中期） 態度・行動の変化	【指標】 サイクリングマップを活用している人の割合	【測定方法】 アンケート調査
（長期） 状態・状況の変化	【指標】 サイクリングでの受傷者数	【測定方法】 救急搬送データ

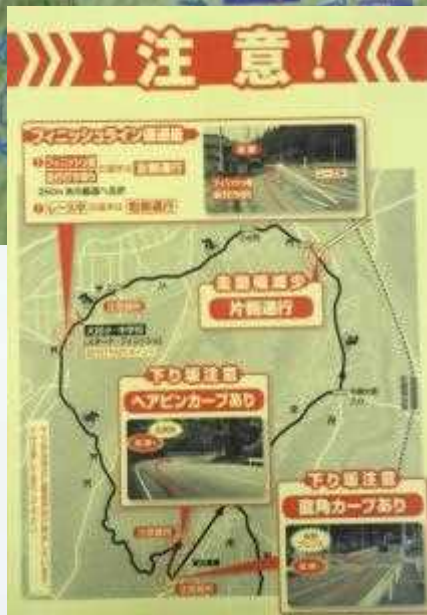
# 取組み5

## サイクリングマップ等の活用

既存のサイクリングマップ

写真⑱

現在、コースの概要程度。



事故が多い  
ロードレース  
大会でコース  
中の事故マッ  
プを配布

SC認証後

コンビニエンスストアでマップの  
配布開始。多くのサイクリストへ  
見てもらう。

New

写真⑲



マップを掲示

空気入れ整備

# 短・中期評価（意識・行動の変化）

## ■チラシ配布数と配布箇所数（短期評価）


データ：秩父市

図表⑲

年度	配布箇所数	配布枚数
2013	—	サイクリングマップ66,000部印刷
2014	2（観光課、観光案内所）	ロードレース参加者へコース事故マップ配布開始
2015	10（道の駅4箇所、秩父郡内レンタサイクル4箇所）	—
2018	31（コンビニエンスストア21箇所）	7,800枚 （コンビニ6,600枚 ロードレース700枚 窓口500枚）
2019	31	1,100枚（ロードレース1,000枚、窓口100枚）
2020	31	50枚（窓口） サイクリングマップ見直し10,000部印刷

## ■サイクリングマップの活用割合（中期評価）

図表⑳

サイクリングマップの配布	2019	2022
周知度	13% (n=1052)	
活用の割合	29% (n=138)	周知度・割合の上昇を目指す

データ：安全・安心なまちづくりに関する市民意識調査アンケート

# ⑥ 自転車安全ポイントの周知・増設（継続）

課題	サイクリングでの事故が多い	
方向性	サイクリング中の安全確保	
内容等	【内容】	自転車の空気入れ、パンク修理キットなどを設置した「自転車安全ポイント」を増設する。また、利用者が少ないことから周知をする。
	【対象】	サイクリスト
	【対策委員会の役割】	<b>取組みへの支援</b> ①自転車安全ポイントの周知・増設 ②サイクルステーションの活用とヘルメットの着用促進
（短期） 意識・知識の変化	【指標】 安全ポイントの認知度	【測定方法】 アンケート調査
（中期） 態度・行動の変化	【指標】 安全ポイントを活用している人の割合	
（長期） 状態・状況の変化	【指標】 サイクリングでの受傷者数	【測定方法】 救急搬送データ

# 取組み6

## ■自転車安全ポイントの周知・増設

SC認証後

コンビニエンスストアを自転車安全ポイントとして活用。

写真⑳



自転車安全ポイント  
(サイクルステーション)

写真㉑



ヘルメットも貸出

写真㉒



New

サイクルラック

## ■自転車安全ポイントの設置


図表㉓

年度	設置数
2013	4箇所（市内道の駅）
2014	5箇所（サイクルステーション）
2015	5箇所（のぼり旗を設置し周知）
2018	26箇所（コンビニエンスストア21箇所追加）

# 短・中期評価（意識・行動の変化）

## ■安全ポイントの認知度（短期評価） 活用している人の割合（中期評価）

図表⑳

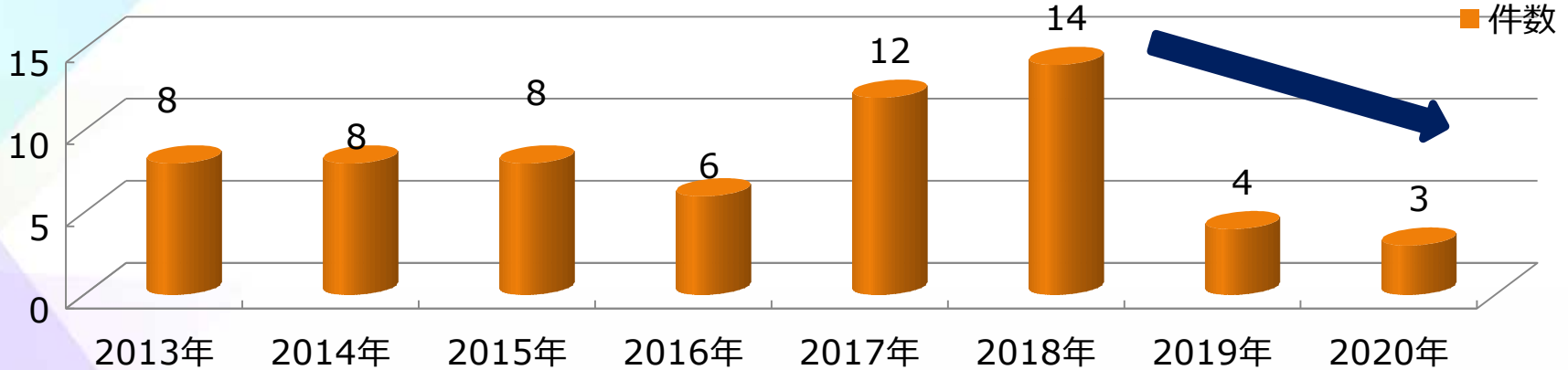
自転車安全ポイント	2019	2022
認知度	9% (n=1048)	
活用の割合	38% (n=98)	認知度・割合の上昇を目指す

データ：安全・安心なまちづくりに関する市民意識調査アンケート

# 長期評価（状況の変化）と現況

## サイクリング受傷者数(長期評価)

図表⑲



図表⑦

### 2008～2013 サイクリング中のケガ (n=27人)主な発生場所

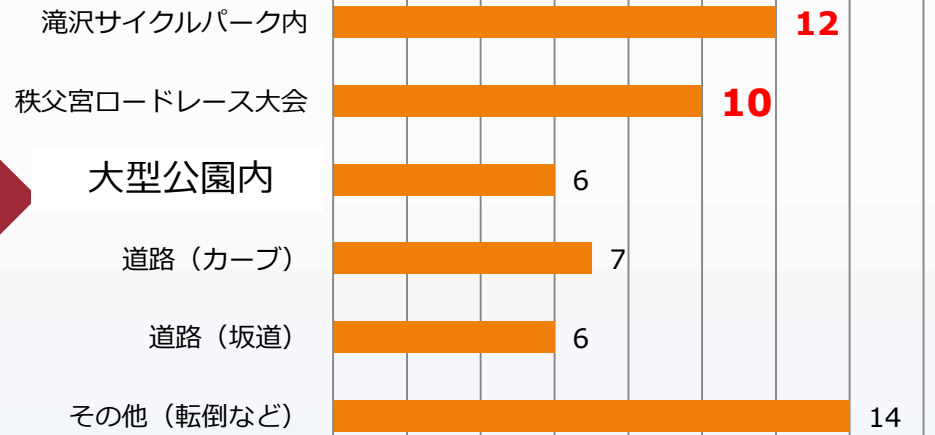
0 1 2 3 4 5 6 7 8



図表⑳

### 2014～2020 サイクリング中のケガ (n=55人)主な発生場所

0 2 4 6 8 10 12 14 16



データ：救急搬送データ（秩父消防本部）

# まとめ①（取組みの成果）

図表③①

	成 果
山 岳	<ul style="list-style-type: none"><li>★山岳遭難件数は減少傾向である。</li><li>★環境整備の取組みを行った秩父御岳山の山岳遭難件数も減少した。</li></ul>
農林機具	<ul style="list-style-type: none"><li>★農林機具講習会参加者の実践行動への意識が高くなっている。</li></ul>
サイクリング	<ul style="list-style-type: none"><li>★サイクリストの利用が多い「コンビニエンスストア」の活用を開始できた。</li></ul>



# まとめ② (アンケート成果)

## 余暇・スポーツでの不安感の減少

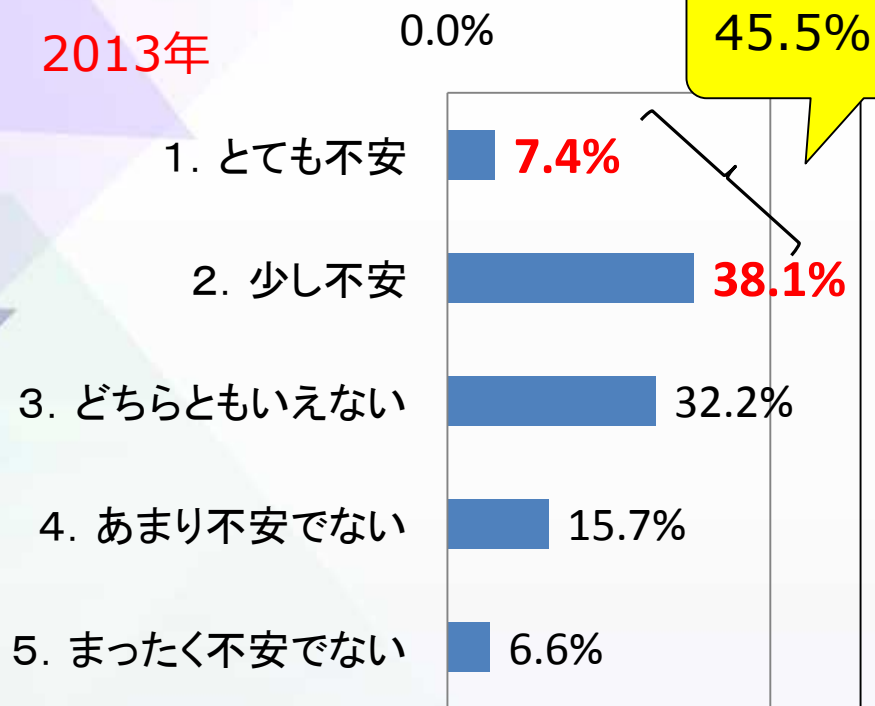
余暇・スポーツでの事故やケガに関する不安感は減少傾向にある。  
45.5% (約半数) から36.3%へ減少。

図表③③

図表③②

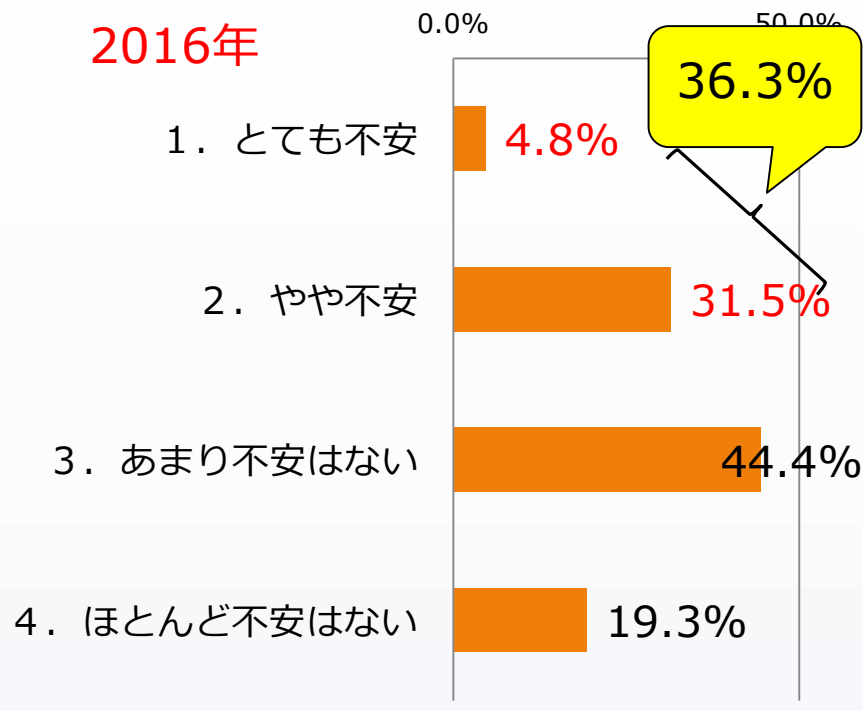
余暇・スポーツでの事故やケガに対する不安(n=1,086)

2013年



余暇・スポーツでの事故やケガに対する不安(n=1,260)

2016年



# まとめ③（評価による振り返り）

図表③④

	課 題
山 岳	<ul style="list-style-type: none"><li>①「安全な登山を行っている人」の割合が低い。</li><li>②評価のための「登山者へのアンケートの実施」が困難。</li><li>③「両神山に対する環境整備」が、なかなか結果に結びつかない。</li></ul>
農林機具	<ul style="list-style-type: none"><li>①「管理機・耕運機の巻き込まれ事故」が増えている。</li><li>②「農林機具を安全使用している人」の割合が低い。</li></ul>
サイクリング	<ul style="list-style-type: none"><li>①「サイクリング（競技種目）の受傷」が増加。</li><li>②「サイクリングマップと自転車安全ポイントの認知度」が低い。</li></ul>

# 事前指導でのアドバイス

## アドバイス①

対象が市民なのか市外の人なのかを考え、取組み(評価)を研究していく



### 対象

- ① 登山・ハイキング：市外観光客
- ② 農林作業：市民
- ③ サイクリング：市民・市外の両方

評価方法として、観光客へのアンケート

- ① 観光案内所
- ② 街頭キャンペーン・パトロール時

## アドバイス②

観光客の増加による経済効果やケガの減少による社会損失の減少などを考える



今後、下記の視点で周知していく

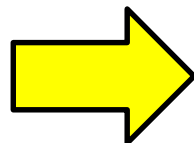
ケガや事故が発生 → 搬送に伴う人件費や病院関係者の事務費等が発生  
観光における安全を確保 → ケガや事故が減少し、社会損失の減少に繋がる

# 新たな課題①（活動が難しい取組み）

図表③⑤

取組み	2018年度	2020年度
安全登山の啓発 (街頭キャンペーン回数)	3回 16,378枚	2回 2,062枚
安全講習会の開催 (草刈機)	1回 30人	開催できず

## 取組みの工夫



- ①接触しない工夫と感染症対策の実施
- ②感染症への予防啓発

図表③⑥

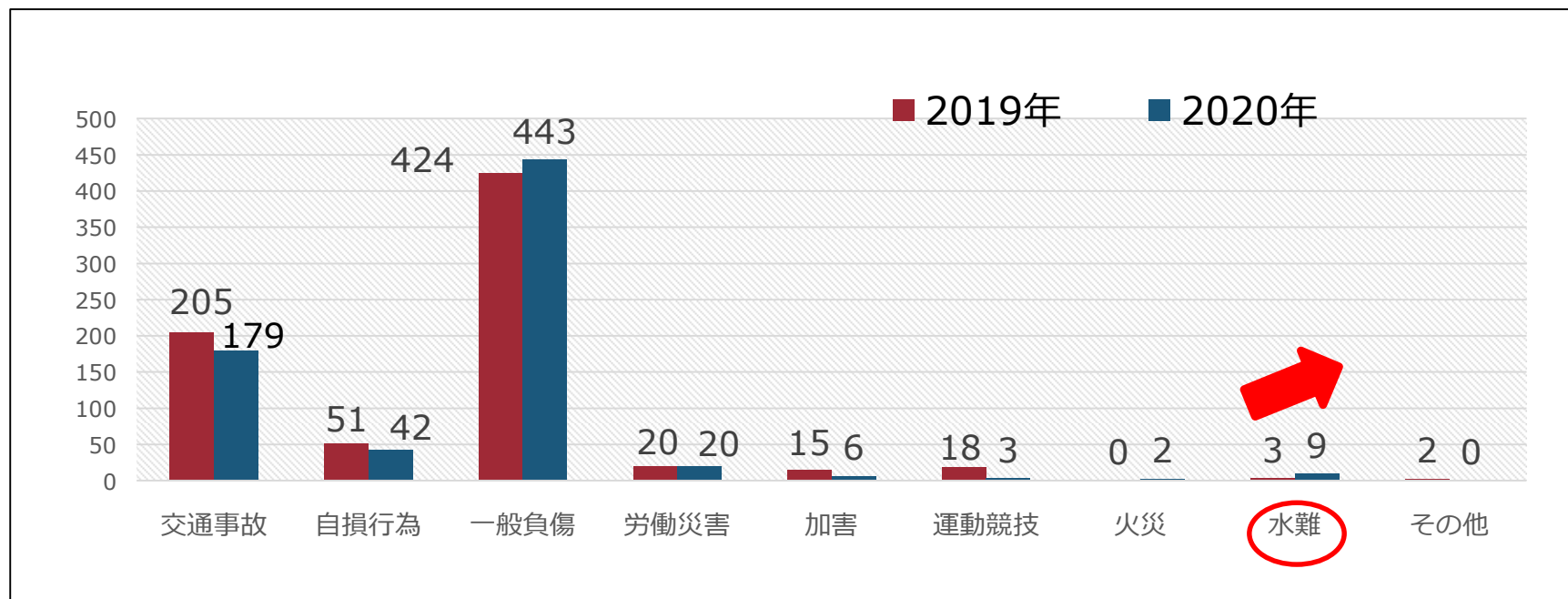
取組み	工夫
安全登山の啓発 (街頭キャンペーン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>★密にならないように参加者を減らしながら実施。</li> <li>★会場を登山口に絞る（駅でのキャンペーンは中止）</li> </ul>
安全講習会の開催 (チェーンソー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>★感染予防対策（マスク着用・定期的な喚起・手指消毒等）を行った上での開催</li> </ul>
ホームセンターでのチラシの配布	<p>新たな注意喚起チラシの配布</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★増加傾向にある耕耘機事故及び脚立の事故</li> <li>★夏の農作業で心がける（マスク着用による熱中症等）こと</li> </ul>

# 新たな課題②（水難事故等の増加）

- \* キャンプ等を楽しむ方の水難事故が増えている  
➔ 救急搬送データ・新聞記事
- \* 密を避けアウトレジャーを楽しむ方の増加  
➔ 山岳・サイクリングでの事故増加の可能性

## 救急搬送データ

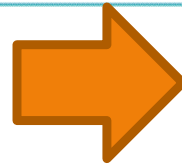
図表③⑦



# 新型コロナウイルス感染証への取組み

委員の意見

\*観光客の増加  
アウトレジャーを楽しむ  
Go・Toキャンペーン



感染予防を呼びかける

感染予防シールを作成

トイレや休憩場へ貼付



ご清聴ありがとうございました



**国際認証都市**  
**セーフコミュニティちちぶ**

